

ユリウス暦	和暦	●多禰國年表(702-824)	飛鳥(592-710(118)) 奈良(710-794(84)) 平安(794-1185(391))	出典(典籍・史料)
0824/10/26	天長元年10月1日	●冬十月一日、多禰島司を停止して、大隅国に併せたく多禰島(国)を大隅国に付属し、多禰島の国分寺を廃止する(702.08.28-824.10.26(122))	<第52代・淳和天皇(702.08.28-824.10.26(122))>	「日本後記」巻第三十二
0809/00/00	大同4年□月□日	●奈良の興福寺を勧請して、種子島に慈達寺(じおんじ)を創建する <710.7.1.//参照<第52代・嵯峨天皇(747.8.6-842(57))> 大同4年4月1日即位	<第52代・嵯峨天皇(747.8.6-842(57))>	▲「本朝文粹」巻第四
0807/11/26	大同2年10月23日	●大同二年十月丙子、大宰府に、唐・多禰島の鷹田一百四十町歩を授けたり。すべからし諸国の例に准じて島司公廩の田、ならびに郡司の識田に賜るべし。以外は悉く百姓の区分に班田せむ云々。これを許す <第51代・平城天皇(33(774.09.25-824.08.05(60)))>	<第51代・平城天皇(33(774.09.25-824.08.05(60)))>	「日本後記」巻第十六
0794/11/18	延暦13年10月22日	○長岡京から平安京に遷都する <平安時代(794-1185(391))>	<第50代・桓武天皇(57(737-806.04.09(70)))>	「日本後記」巻第三
0785/10/05	延暦4年8月28日	○中納言の従三位・大伴家持が薨る <大伴家持(718-785.10.05(68))父は大伴旅人・祖父は安麻呂 <第50代・桓武天皇(48(737-806.04.09(70)))>	<第50代・桓武天皇(48(737-806.04.09(70)))>	「続日本紀」巻第三十八
0779/02/28	宝龜10年2月28日	●淡海三船(おうみのみづね)が『唐大和上東征傳』を撰する <鑑真傳<淡海三船<思託(したく)、<光仁天皇(70(709.11.18-782.01.11(73)))>	<第49代・光仁天皇(70(709.11.18-782.01.11(73)))>	「唐大和上東征傳」淡海三船 779
0772/01/31	宝龜2年12月22日	●大宰府が日向国・大隅国・薩摩国および唐・多禰島などの博士や医師の赴任を、朝廷と同じ8年交替にするよう言上し、太政官はこれを許可する	<第48代・称徳天皇(50(718-770.8.28(53))女帝)>	「続日本紀」巻第三十一
0770/09/14	宝龜元年8月21日	●大宰府の神主・習宜阿曾麻呂(すげのあそまろ)を多禰島守に任じた <宇佐八幡の神託事件首謀者として左遷する<光仁天皇(61(709.11.18-782.01.11(73)))>	<第48代・称徳天皇(50(718-770.8.28(53))女帝)>	「続日本紀」巻第三十一
0766/09/05	天平神護2年7月27日	●多禰島(種子島)に飢饉があったので物を与えて救済する <第48代・称徳天皇(50(718-770.8.28(53))女帝)>	<第48代・称徳天皇(50(718-770.8.28(53))女帝)>	「続日本紀」巻第二十七
0765/02/27	天平神護元年2月4日	●唐・多禰(種子島)などの国に飢饉があったので、物恵みを与える <第48代・称徳天皇(48(718-770.8.28(53))女帝)>	<第48代・称徳天皇(48(718-770.8.28(53))女帝)>	「続日本紀」巻第二十六
0764/09/16	天平宝字8年8月16日	●多禰島(種子島)に飢饉があり、物恵みを与える(賑給(しごう)を賜う) <第47代・淳仁天皇(31(733-765.11.10(33)))>	<第47代・淳仁天皇(31(733-765.11.10(33)))>	「続日本紀」巻第二十五
0763/06/21	天平宝字7年5月6日	●鑑真和上が唐招提寺で薨る <鑑真和上(687-763.6.21(77))>	<第47代・淳仁天皇(30(733-765.11.10(33))<唐帝(明治3年に淳仁の諡号が贈られ復位)>	「続日本紀」巻第二十四
0760/09/20	天平宝字4年8月7日	●8月7日、淳仁天皇は次のように勅した。大隅・薩摩・唐・対馬・多禰(種子島)などの役人は、その身は辺境の要地であって、飢えや寒さに苦しんでいる。(中略)少くも故郷を離れた他郷にいるもの心を慰めてやりたい <第47代・淳仁天皇(27(733-765.11.10(33)))>	<第47代・淳仁天皇(27(733-765.11.10(33)))>	「続日本紀」巻第二十三
0759/00/00	天平宝字3年□月□日	○唐招提寺を創建する <鑑真和上(73(687-763.06.19(77))>	<第47代・淳仁天皇(26(733-765.11.10(33)))>	「続日本紀」巻第二十二
0759/00/00	天平宝字3年□月□日	○『万葉集』が成る<大伴家持(41(718-785.10.05(67))730帰京(12)/764薩摩守(46)/767大宰少式(49)/785死去(67)/806復位<第47代・淳仁天皇(26(733-765.11.10(33)))>	<第47代・淳仁天皇(26(733-765.11.10(33)))>	「続日本紀」巻第二十二
0757/06/11	天平宝字元年5月20日	○『養老律令』を施行する <718.7.1.//参照<第47代・淳仁天皇(24(733-765.11.10(33)))>舎人親王の七男<唐帝(明治3年に淳仁の諡号が贈られた)>	<第47代・淳仁天皇(24(733-765.11.10(33)))>	「続日本紀」巻第二十
0756/07/22	天平神護5年6月2日	●光明皇后が聖武天皇(セタ忌)の遺品六百数十点を東大寺大仏に献納する >正倉院(北倉)保管宮内庁<光明皇后(55(701-760.07.23(59)))>	<第46代・聖武天皇(34(718-770.8.28(53))女帝)>	「宮内庁」(No.25)国家珍宝帳
0756/06/04	天平勝宝8歳5月2日	●聖武天皇が崩御する <第45代・聖武天皇(701-756.6.4(56))>	<第46代・孝謙天皇(38(718-770.8.28(53))女帝)>	「続日本紀」巻第十九
0754/03/18	天平勝宝6年2月20日	●南嶋(南西諸島)の島ごとに漂着船対策の幣帛(立て札)を立てる <735.7.1.//参照<第46代・孝謙天皇(36(718-770.8.28(53))女帝)>	<第46代・孝謙天皇(36(718-770.8.28(53))女帝)>	「続日本紀」巻第十九
0754/01/09	天平勝宝5年12月12日	●鑑真を乗せ多禰島(国)に向かった遣唐使の第二船が益敷嶋(屋久島)に到着する<鑑真来日> <沖風12(6)/12/12屋久島12(18)20秋目>26大宰府/2/4帰朝	<第46代・孝謙天皇(34(718-770.8.28(53))女帝)>	「唐大和上東征傳」淡海三船 779
0752/05/26	天平勝宝4年4月9日	○東大寺の盧舎那大仏の像が完成して開眼供養をする <大仏開眼供養<第46代・孝謙天皇(34(718-770.8.28(53))女帝)>	<第46代・孝謙天皇(34(718-770.8.28(53))女帝)>	「続日本紀」巻第十九
0751/12/00	天平勝宝3年11月□日	●淡海三船(おうみのみづね)が『懷風藻』を撰する <淡海三船(真人元開)(29(722-785(63)))>	<第45代・聖武天皇(45(701-756.6.4(56)))>	「懷風藻」淡海三船 751
0745/00/00	天平17年□月□日	○東大寺を起工する <第45代・聖武天皇(45(701-756.6.4(56)))>	<第45代・聖武天皇(45(701-756.6.4(56)))>	「続日本紀」巻第十八
0742/09/28	天平14年8月25日	●大隈・薩摩・唐・対馬・多禰などの国の官人の録は、筑前国の国司が命じることに(太宰府廃止措置) <第45代・聖武天皇(42(701-756.6.4(56)))>	<第45代・聖武天皇(42(701-756.6.4(56)))>	「続日本紀」巻第十四
0742/09/28	天平14年8月25日	●唐・対馬・多禰の三嶋の郡司候補や、叙位条件を満たしたものは島に身柄を留める(太宰府廃止措置)	<第45代・聖武天皇(42(701-756.6.4(56)))>	「続日本紀」巻第十四
0742/02/14	天平14年1月5日	●太宰府を廃止する <745/07/08復活<第45代・聖武天皇(42(701-756.6.4(56)))>	<第45代・聖武天皇(42(701-756.6.4(56)))>	「続日本紀」巻第十四
0741/03/05	天平13年2月14日	●諸国に国分寺、国分尼寺の建立の詔を出す <第45代・聖武天皇(41(701-756.6.4(56)))>	<第45代・聖武天皇(41(701-756.6.4(56)))>	「続日本紀」巻第十四
0738/10/13	天平10年8月26日	●諸国に国郡の地図を作り、進上することを命じる <第45代・聖武天皇(37(701-756.6.4(56)))>	<第45代・聖武天皇(37(701-756.6.4(56)))>	「続日本紀」巻第十三
0738/00/00	天平10年□月□日	●官の馬牛の皮をもって入府(大宰府)した多禰島人28人が嶋に帰還した。嶋出身の僧2人も得度して帰った。それぞれに25日分の食料を支給した	<第45代・聖武天皇(28(701-756.6.4(56)))>	「筑後国正税帳」正倉院文書
0737/07/13	天平9年6月11日	○太宰府大式の従四位下・小野朝臣老(おののあそんおゆ)が卒する<青丹(あおに)よし 事案(なら)の京師(みやこ)は 咲(花)の 匂(ふ)がごとく 今(さ)かりなり(万328)>	<第45代・聖武天皇(28(701-756.6.4(56)))>	「続日本紀」巻第十二
0735/00/00	天平7年□月□日	●太宰府大式(の)の従四位下・小野朝臣老(おののあそんおゆ)が高橋牛養(うしかい)を南嶋(南西諸島)に遣わし、島ごとに立札を建てて <小野朝臣老123-737.07.13>	<第45代・聖武天皇(28(701-756.6.4(56)))>	「続日本紀」巻第十二
0734/12/19	天平6年11月20日	●遣唐大使の多治比真人成成らが多禰島(たねのしま)に降り着いた <多治比成成<吉備真備<玄昉<羽粟親子<第45代・聖武天皇(33(701-756.6.4(56)))>	<第45代・聖武天皇(33(701-756.6.4(56)))>	「続日本紀」巻第十一
0734/08/10	天平6年7月7日	○聖武天皇が七夕の詩を作らせる <第45代・聖武天皇(28(701-756.6.4(56)))>	<第45代・聖武天皇(28(701-756.6.4(56)))>	「続日本紀」巻第十一
0734/02/16	天平6年1月9日	○光明皇后が母・橘三千代の一周忌法要の為、興福寺西金堂を建立して阿修羅など天龍八部衆をおさめた <光明皇后(33(701-760.07.23(59)))>	<第45代・聖武天皇(28(701-756.6.4(56)))>	「正倉院文書」造仏所作物帳
0733/07/17	天平5年6月2日	●多禰島(種子島)熊毛郡の大領で、外従七位下の安志託(あした)ら11人に、多禰後国造(たねのしりのくに)の氏姓を賜った。益敷郡の大領で、外従六位下の加理加(かり)がたねの島に136人には多禰直(たねのあたい)を、能満郡の少領で、外従八位上の粟麻呂(あまら)ら969人には、居所によって直の姓(あたいのかね)を賜った <計1116名、幣帛や烽火を担う<第45代・聖武天皇(32(701-756.6.4(56)))>	<第45代・聖武天皇(32(701-756.6.4(56)))>	「続日本紀」巻第十一
0733/05/20	天平5年4月3日	●遣唐使の四船590名が難波の津より出航する >8月蘇州に着>□月長安で献貢>734年10月蘇州発>734/12/19参照	<第45代・聖武天皇(33(701-756.6.4(56)))>	「続日本紀」巻第十一
0733/04/15	天平5年3月26日	●遣唐大使の多治比真人成成が天皇に別れの拝謁をし、聖武天皇は節刀を授けた <第45代・聖武天皇(33(701-756.6.4(56)))>	<第45代・聖武天皇(33(701-756.6.4(56)))>	「続日本紀」巻第十一
0733/03/21	天平5年3月1日	●遣唐大使の多治比真人成成が山上憶良を諷喝し、2日後(3月3日)、山上憶良は「好去好来歌(こうきょこうらいか)」を大使に献ずる<山上憶良660-733.6.3(74)>	<第45代・聖武天皇(33(701-756.6.4(56)))>	「万葉集」巻第五(八一九)
0733/03/19	天平5年2月29日	○『出雲風土記』が完成する <713/05/02参照<第45代・聖武天皇(33(701-756.6.4(56)))>	<第45代・聖武天皇(33(701-756.6.4(56)))>	「続日本紀」巻第十一
0731/08/31	天平3年7月25日	○大納言・従二位の大伴旅人が薨る <665-731.08.31(66)酒の歌人>	<第45代・聖武天皇(33(701-756.6.4(56)))>	「続日本紀」巻第十一
0730/02/04	天平2年1月13日	○遠の朝廷(おのみかど)と称された太宰府で太宰帥・大伴旅人が、新年の「梅花の宴」を開催する <和歌の誕生日>	<第45代・聖武天皇(33(701-756.6.4(56)))>	「続日本紀」巻第十
0729/03/16	神龜6年2月12日	○長屋親王が藤原氏の陰謀(誣告)により自害する(長屋王の変) <長屋親王(684-729.03.16(45))>	<第45代・聖武天皇(28(701-756.6.4(56)))>	「続日本紀」巻第十
0727/12/24	神龜4年11月8日	●南嶋(種子島・屋久島・奄美大島)の人132人が来朝し、身分に応じて位階を授けた <第45代・聖武天皇(27(701-756.6.4(56)))>	<第45代・聖武天皇(27(701-756.6.4(56)))>	「続日本紀」巻第十
0724/07/31	神龜元年7月7日	○山上憶良が長屋親王宅で七夕の歌を詠む <久方(ひさかた)の天の川瀬に舟浮けて今夜(こよひ)か君が我が来まざむ<山上憶良660-733.6.3(74)?>	<第45代・聖武天皇(27(701-756.6.4(56)))>	「万葉集」巻第八(一五一九)
0722/05/05	養老6年4月16日	●太宰府管轄の大隈・薩摩・多禰・唐・対馬の国司と郡司の欠員は、太宰府の官人から任じる <第44代・元正天皇(43(680-748.05.22(69))女帝)>	<第44代・元正天皇(43(680-748.05.22(69))女帝)>	「続日本紀」巻第九
0721/12/29	養老5年12月7日	○元明天皇が崩御する <第43代・元明天皇(661-721.12.29(61))女帝>	<第44代・元正天皇(43(680-748.05.22(69))女帝)>	「続日本紀」巻第八
0720/12/11	養老4年11月8日	●南嶋(南西諸島)の人232人に、それぞれ身分に応じて位階を与えた <第44代・元正天皇(41(680-748.05.22(69))女帝)>	<第44代・元正天皇(41(680-748.05.22(69))女帝)>	「続日本紀」巻第八
0720/09/09	養老4年8月3日	○右大臣正二位・藤原不比等(ふじわらのふひと)が薨る(659-720.9.9(62)) <律令国家成立期の政治家で、右大臣、太政大臣をつとめた>	<第44代・元正天皇(41(680-748.05.22(69))女帝)>	「続日本紀」巻第八
0720/07/01	養老4年5月21日	●一品・舎人親王が『日本書紀』編纂を完成して奏上する <舎人親王(45(676-735(60)))>	<第44代・元正天皇(41(680-748.05.22(69))女帝)>	「続日本紀」巻第八
0720/04/15	養老4年3月4日	○単人を倒すために、大伴旅人(おおとものたびと)を征準人持師大將軍に任ずる	<第44代・元正天皇(41(680-748.05.22(69))女帝)>	「続日本紀」巻第八
0719/08/03	養老3年7月13日	●国司等の行政状態を中央に報告する役目の按察使(あぜち)を設置する	<第44代・元正天皇(41(680-748.05.22(69))女帝)>	「続日本紀」巻第八
0718/00/00	養老2年□月□日	○『養老律令』が成る <757/05/20参照<藤原不比等(60(659-720.8.3(62)))>	<第44代・元正天皇(39(680-748.05.22(69))女帝)>	「続日本紀」巻第八
0715/02/23	和銅8年1月1日	●蝦夷と南嶋の人々77人に、地位に応じてそれぞれ位階を授けた <第43代・元明天皇(55(661-721.12.29(61))女帝)>	<第43代・元明天皇(55(661-721.12.29(61))女帝)>	「続日本紀」巻第六
0715/02/09	和銅8年1月1日	○南嶋の奄美・夜久(屋久島)・度感(徳之島)・信覚(石垣)・球美(久米島)の島民が来朝し、土地の産物を貢上した<第43代・元明天皇(55(661-721.12.29(61))女帝)>	<第43代・元明天皇(55(661-721.12.29(61))女帝)>	「続日本紀」巻第六
0715/01/14	和銅7年12月5日	○小初位下の太朝臣遠建治らが、南嶋の奄美・信覚(石垣)・球美(久米島)などの島民52名を率いて帰朝した<第43代・元明天皇(54(661-721.12.29(61))女帝)>	<第43代・元明天皇(54(661-721.12.29(61))女帝)>	「続日本紀」巻第六
0714/06/11	和銅7年4月25日	●多禰島(多禰)に島の公印一箇を与えた<国司(島司)の印<第43代・元明天皇(54(661-721.12.29(61))女帝)><多禰島=多禰國(たねのくに)と呼称>	<第43代・元明天皇(54(661-721.12.29(61))女帝)>	「続日本紀」巻第六
0713/05/30	和銅6年5月2日	○元明天皇が大宰府の支配を確立するために『風土記』の編纂を命じる <解文<報告書<風土記<第43代・元明天皇(53(661-721.12.29(61))女帝)>	<第43代・元明天皇(53(661-721.12.29(61))女帝)>	「続日本紀」巻第六
0713/05/01	和銅6年4月3日	○日向国から肝坏・贈於・大隈・始(肝)・曾根・大隈・始(肝)の四郡を割いて、初めて大隅国を設ける <第43代・元明天皇(53(661-721.12.29(61))女帝)>	<第43代・元明天皇(53(661-721.12.29(61))女帝)>	「続日本紀」巻第六
0712/03/09	和銅5年1月28日	●太安萬侶(おののやすまろ)が『古事記』全3巻を完成させ、元明天皇に献上する <第43代・元明天皇(52(661-721.12.29(61))女帝)>	<第43代・元明天皇(52(661-721.12.29(61))女帝)>	「続日本紀」巻第五「古事記」上巻
0711/11/03	和銅4年9月18日	●元明天皇が『古事記』の撰録を太安萬侶(太朝臣安萬侶)に命じて<天武天皇が神田阿礼に誦習させた帝紀<旧録を撰録する<第43代・元明天皇>	<第43代・元明天皇(52(661-721.12.29(61))女帝)>	「古事記」上奏文
0710/04/13	和銅3年3月10日	○元明天皇が平城京(奈良)に遷都する <第43代・元明天皇(50(661-721.12.29(61))女帝)>	<第43代・元明天皇(50(661-721.12.29(61))女帝)>	「続日本紀」巻第五
0709/08/08	和銅2年6月28日	●太宰府の帥(そち)以下の平職人数を半減、ただし薩摩と多禰島の国司と国師(国分寺僧侶)は据え置く <第43代・元明天皇(49(661-721.12.29(61))女帝)>	<第43代・元明天皇(49(661-721.12.29(61))女帝)>	「続日本紀」巻第四
0707/08/07	慶雲4年7月6日	●太宰府に使いを遣わし、南嶋(南西諸島)の人に位を授け、地位に応じて禄を賜う <遣唐使の補助の功勞による<第42代・文武天皇(25(683-707.7.18(25)))>	<第42代・文武天皇(25(683-707.7.18(25)))>	「続日本紀」巻第四
0706/09/09	慶雲3年7月28日	●三嶋(唐・対馬・種子島)の大風と日照りによる被害を太宰府が奏言し、被災者の調・庸を免除する <第42代・文武天皇(24(683-707.7.18(25)))>	<第42代・文武天皇(24(683-707.7.18(25)))>	「続日本紀」巻第三
0704/05/17	大宝4年4月9日	●敏治司に諸国印を鑄造させる <第42代・文武天皇(22(683-707.7.18(25)))>	<第42代・文武天皇(22(683-707.7.18(25)))>	「続日本紀」巻第三
0703/01/13	大宝2年12月22日	○持統天皇(太上天皇)が崩御する<天皇の火葬の初め<第41代・持統天皇(645-703.01.13(58))女帝<第42代・文武天皇(21(683-707.7.18(25)))>	<第42代・文武天皇(21(683-707.7.18(25)))>	「続日本紀」巻第二
0702/11/08	大宝2年10月14日	●「大宝律令」をすべての国に頒布する <第42代・文武天皇(20(683-707.7.18(25))<藤原不比等(43(659-720.09.09(61)))>	<第42代・文武天皇(20(683-707.7.18(25)))>	「続日本紀」巻第二
0702/08/28	大宝2年8月1日	●大和朝廷は一国に準ずる多禰島(国)を置く<国府(702.08.28-824.10.26(122))>●薩摩と多禰(種子島)は王化に服さず、政令に逆らっていたので、兵を遣わして征討し、戸口を調査して常駐の官人を置いた。出雲(いづものこま)に従五位下を授ける <第42代・文武天皇(20(683-707.6.15(25)))>	<第42代・文武天皇(20(683-707.6.15(25)))>	「続日本紀」巻第二
0702/07/28	大宝2年6月29日	●遣唐使船がようやく渡航した(前年筑紫から出港したが風雨が激しくて渡航中止、大使・粟田朝臣真人、小録・山上憶良) <慶雲元年7月1日に帰朝>	<第42代・文武天皇(20(683-707.6.15(25)))>	「続日本紀」巻第二
0702/03/03	大宝2年2月1日	●大宝律令を諸国に頒布する <第42代・文武天皇(20(683-707.6.15(25))<藤原不比等(43(659-720.09.09(61)))>	<第42代・文武天皇(20(683-707.6.15(25)))>	「続日本紀」巻第二
0701/09/09	大宝元年8月3日	●大宝律令の選定が正三位・藤原不比等らによって完成する<国号「日本」を定めて翌年施行、国司の派遣<第42代・文武天皇(19(683-707.6.15(25)))>	<第42代・文武天皇(19(683-707.6.15(25)))>	「続日本紀」巻第二
0699/08/19	文武3年7月19日	●多禰・被玖・菴美・度感(種子島・屋久島・奄美・徳之島)などの島民が来朝する ●秋七月十九日、多禰(種子島)・夜久(屋久島)・菴美(奄美大島)・度感(徳之島)などの人々が、朝廷から遣わされた官人に従ってやってきて、土地の産物を献上した。身分に応じて位を授け、物を賜った	<第42代・文武天皇(15(683-707.6.15(25)))>	「続日本紀」巻第一
0698/05/27	文武2年4月13日	●務広武(正七位)の文忌寸博士ら8人に、兵器を支給し、国を探るため南嶋(南西諸島)に派遣する <第42代・文武天皇(15(683-707.6.15(25)))>	<第42代・文武天皇(15(683-707.6.15(25)))>	「続日本紀」巻第一
0695/07/07	持統9年5月21日	○単人の相撲を、飛鳥寺の西の欄の木の下面で行われ、皆が見物した <第41代・持統天皇(51(645-703.01.13(58))女帝)>	<第41代・持統天皇(51(645-703.01.13(58))女帝)>	「日本書紀」巻第三十
0695/05/11	持統9年3月23日	●二十三日、務広武・文忌寸博士と連広参・下詔語諸田らを多禰(種子島)に遣わして、蜜の居所を探させた <第41代・持統天皇(50(645-703.01.13		